

避難してきたママと子が出会う場づくり

「福島限定日」

東日本大震災以降、福島県から避難してきた母子が多く利用するようになつたため、福島から避難してきた母親と子どものみが支援センターを利用できるよう「福島限定日」を設定。方言や話題を気にすることなく交流、情報交換できるコーナー、サロンを開催した。

平成 23 年 10 月 11 日 会場＊にいつ子育て支援センター 育ちの森

当日の流れ
13:00…OPEN
14:00…サロン
15:00…スポットタイム 終了後ロビーライブ
15:40…おかたづけ・体操
16:00…おかえり

●情報コーナー（サークルルーム 2）

新潟市子育て応援パンフレット、新潟近郊の地図、子育てに関する情報

●相談コーナー（サークルルーム 2）

相談コーナー設置～新潟市秋葉区児童係、新潟市秋葉区社会福祉協議会担当者、見守り相談員が担当。



●あそびの広場（プレイルームほか）

スポットタイムで親子遊びの提供（歌、体操、合奏等）



●参加者の声

- 方言を気にせず話せてよかったです。
- 同じ境遇の方と知り合え、情報交換できてよかったです。
- また、このような限定日を開いてほしい。子どもの喜ぶ顔を見ることができてよかったです。
- 避難してきた母親、子どもの出会いの場となり、交流ができた。
- 情報収集や交流を目的に利用している姿が多くみられた。
- 福島県出身で新潟在住の母親がサロンに参加したことでの場が和み、新潟、福島両県の情報交換ができた。
- 居場所になるサークルが立ち上がった。
- 相談コーナーを利用される方が少なかった。
- 情報コーナーもチラシを持ち帰るのみで、利用はほとんどなかった。
- 相談できる環境の設定、周知のしかたが今後の課題。
- このような機会を知らない、または出てこられない親子への今後の支援。

準備

- 連携機関に情報コーナーの協力を要請
- 広報（ポスター、チラシ作成、配布）
- 必要な情報を母親たちに聞き取りをして、情報を集めておく。

連携

- 新潟市秋葉区児童係
- 新潟市秋葉区社会福祉協議会
- 見守り相談員

経費

- 広報（ポスター、チラシ作成の紙、インク代、約 10,000 円）
- 人件費は支援センターで開催のため 0 円

避難してきたママと子の居場所づくり

「キビタンズサークル」

「福島限定日」のサロン開催時にママたちの要望からできたサークル。自分たちの居場所ができた。

月 2 回 10:00 ~ 12:00 ※平成 23 年～現在

会場・新津健康センター

●サークルの内容

福島県から避難してきている親子対象のサークル。親子で集え、遊べる場。交流、情報交換、相談も行う。社会福祉協議会の助成金で運営。平成 24 年現在の登録数は 64 名。会場予約、おもちゃの準備はリーダーが行う。

●サークル立ち上げの経緯

福島県出身の新潟市在住ママから、「福島のママと子どものために何かしたい。お手伝いできることはありますか」という申し出があり、新潟で暮らしている先輩ママとして「福島限定日」のサロンに参加、情報提供を行った。今後もみんなで集まる場としてサークルの話題になり、新潟在住の先輩ママが代表を引き受け、現在も継続して代表を務めている。

●参加者の声

- 福島のママたちで定期的に集まれるサークルは必要だと思っていたが、リーダーを務めたり、運営はできないと思っていた。新潟在住の先輩ママがリーダーになってくれて心強い。
- 社会福祉協議会の助成金で運営支援を受けているため、会費の負担がなく、ありがたい。
- ここに来ると同じ境遇のママに会えるのでうれしい。子どもが同じ年ごろなので話題も一緒に話しやすい。

育ちの森の支援（立ち上げ、運営支援）

- サークル、規約作成をリーダー、社会福祉協議会と一緒に考える。
- サークルに向き、協力支援。
- 相談対応から必要な機関につなぐ。
- 取材、メディアの窓口対応。
- おもちゃの貸し出しなど。

秋葉区社会福祉協議会の支援

- サークル立ち上げに協力。
- 助成金で運営支援。
- サークルに向き、協力支援。

サークル運営に必要な経費

- 保険料、事務費（コピー代他）
- 会場費は登録団体の申請をし、減免を受け無料。

「ふくしまママサロン」福島県子どもの心のケア事業

「ふくしまママサロン」は、福島県から避難してきたママと子どもが遊ぶ、交流する、情報交換する、相談できる場として設けた。育ちの森スタッフ、サロンスタッフ 2 名、保育士 1 名が必要に応じて専門機関と連携して運営。

月 1 回 9:30 ~ 11:30 ※平成 24 年 9 月～平成 25 年 3 月まで

会場・新津健康センター

●対象

福島から避難してきた親と子

●スタッフの役割

開催準備………安全に遊びやすいよう設定する。

受付・情報提供…受付セット（受付表、登録表）を用意、情報を手に取りやすいよう並べる。

かかわり………安全を見守り、子どもと遊ぶ。遊び方を伝える。

孤立している方に疎外感を与えないようスタッフがかかわる。

相談………相談を受ける場合、部屋の隅を利用し話の内容がもれないよう気を配る。

明るい部屋でおもちゃもあるので、子どもも楽しそうにしていてうれしい。

初めての利用だったが、福島県からきた親子だけの場所なので安心していらされた。

情報を得ることができてよかったです。子ども同士が仲良くなり、一緒に食事の約束もできた。

●効果

スタッフが 4 名入ることで、参加者が安心して過ごせる場になっている。

専門機関と連携がとれているので必要に応じて相談が受けられる。

月 1 回の開催のため、予定が入っていると参加できないという声もある。

連携

- 特定非営利活動法人 ビーンズふくしま
- 秋葉区健康福祉課

子どもを預けて話せる場づくり

保育を設け、ママが落ち着いて安心して話せる場になるよう、各回ともファシリテーターを配置。

ファシリテーターの役割

- ・参加者の緊張がほぐれるよう、はじめにゲーム等を行い、場の雰囲気を和らげる。
- ・参加者が話したい、聞きたいという内容を出してもらい、各回のテーマを決めて進める。
- ・話題や意見が偏らないようにする。
- ・一人がたくさんの時間を使用した場合や、個人的な深い内容になった際には、話の内容を確認するなどし、後日個別の相談対応をする。

「ふくしまママ茶会」福島乳幼児・妊娠婦ニーズ対応プロジェクト(FnnnP)委託事業

単発講座×4クール開催(平成23年10月～12月)

連携

- ・福島乳幼児・妊娠婦ニーズ対応プロジェクト(FnnnP)
- ・東日本大震災中央子ども支援センター福島窓口
(特定非営利活動法人ビーンズふくしま)
- ・新潟市秋葉区健康福祉課

会場*にいつ子育て支援センター育ちの森

●対象

- ・福島県から新潟に避難してきた就学前の子をもつ保護者

●定員

- ・各回 10名

●テーマ

- ・各回で異なるが、全部に共通したテーマが下記の内容。
「子どもの遊べる場所」「放射能が気になるため、食品の選び方で気をつけていること」「新潟の情報（お店、病院、一時預かり）」他

●参加者の声

- ・子どもと離れて心置きなく話ができるよかったです。情報も得られてよかったです。
- ・久しぶりに大人と話ができるよかったです。
- ・皆さんの気持ちを知って、自分だけではないという安心感が生まれた。

●効果

- ・保育を設けた母子分離講座のため、参加者が顔を合わせて落ち着いて話ができる。
- ・いろんな情報を共有する機会になった。

●課題

- ・食事処の個室で子どもも一緒に食事ができることで交流ができ、つながりが持てた。
- ・それぞれの回で話し合われた情報を、福島から避難してきたママにどのようなかたちで情報提供していくか検討が必要。

●協力

- ・株式会社里味

「みんなで語ろう」財団法人こども未来財団助成金事業

単発講座×2クール開催(平成24年1月～3月)

会場*新津健康センター

●対象

- ・福島県から新潟に避難してきた就学前の子をもつ保護者

●定員

- ・20名×1回 10名×1回の2回

●テーマ

- ・参加者の声から
「新潟の冬が心配、雪の対処法を知りたい」「雪道の運転のしかたを知りたい」「放射能が心配。食材、水はどうしているか」

●参加者の声

- ・話し合いをする前にオリジナルのハンドソープを作り、ハーブの香りを楽しみ、和やかに話ができる雰囲気づくりをした。
- ・子どもと離れて話ができるよかったです。たくさんの情報を得ることができました。

●効果

- ・みんなでソープを作りながら話ができるリラックスした。
- ・たくさんの親親が避難していることがわかり、心強く思った。

●課題

- ・明るい部屋で和やかな雰囲気の中、リラックスして話ができる。
- ・新潟に避難してきたばかりの参加者が、一足早く避難している方から新潟の情報を得ることができた。
- ・セミナー終了後、声をかけあってランチに行く姿が見られた。
- ・周知が困難なためか、このような機会を知らない、または出てこられない親子への今後の支援。

「福島NP（ノーバディズ・パーカクト）セミナー」新潟市秋葉区依頼事業

全6回シリーズ1クール開催(平成24年2月～3月)

会場*にいつ子育て支援センター育ちの森

●対象

- ・福島県から新潟に避難してきた就学前の子をもつ保護者

●定員

- ・10名

●テーマ

- ・参加者の声の中から全6回のテーマ決めをする。
「食のこと」「子どものイヤイヤ時期の対応」「家族のこと」「避難に関して」「自分の気持ち」など

●参加者の声

- ・避難生活が長くなり、24時間体制で子どもと向き合っているのはつらいが、この講座があることで支えられていた。この講座で友人もできた。

●効果

- ・6回あることで、皆さんのがわかり、安心して自分の気持ちを話せた。
- ・支援が必要とされている方が参加できたことで、継続しての相談、専門機関の支援に結びつけることができた。

※NPとは
ノーバディズ・パーカクトセミナー。カナダ生まれの0～5歳までの子どもをもつ親のための教育・支援プログラム。親自身の知識や経験を土台にしながら、互いに学び合う。ファシリテーターの援助を受けながら、親同士が互いを情報源、アドバイスの資源として助け合い、支え合うことをめざしている。

「ふくしまママ話会」福島県子どもの心のケア事業

3回シリーズ×6クール開催(平成24年9月～25年3月) 会場*にいつ子育て支援センター育ちの森

●対象

- ・福島県から新潟に避難してきた就学前の子をもつ保護者

●定員

- ・各回 10名

●テーマ

- ・参加者の声の中から全3回のテーマ決めをする。
「今後どうしますか」「子どもと自分の体のこと」「子どもの成長のこと」他

●参加者の声

- ・3回シリーズなので、継続して同じメンバーで話ができることが安心。
- ・子どもと離れて大人だけで話せることがうれしい。ストレス発散になる。

●効果

- ・このようない場を求めていた。
- ・時間が経つほど状況が変わり、つらい思いをしている方が多いが、回を重ねるたびにリラックスして話ができる。「気分転換とストレス発散に役立っている」「人に話することで自分の考えがまとめられる」という声が聴かれた。

セミナーを担当する者が

心得ておかなくてはいけないこと

セミナーにおいて、話された内容の守秘、参加したからといって話を強要されず、パスしても話さなくても良いという選択肢の保障、要望がない限り、他人（ひと）への助言は極力控えるなどのグランドルールを共有することが、安全で安心な場をつくることにつながります。参加されるお母様が話したいことは“つらいこと”とは限りません。ファシリテーターは、参加者が話したいときに話すことができるよう場づくりに配慮することが大切です。

福島県立医科大学 看護学部
古橋知子